

視聴覚教育

NO. 328

発行日

18. 12. 15

発行

岡崎市AVL

編集

現職研修委員会

学習情報部

視聴覚用語
 『Windows Vista (Vista)』
 マイクロソフト社が2007年1月に、5年ぶりに発売するパソコン向けのOS。XPと比べて様々な機能が準備されている。特に、スピークウェアからのセキュリティ機能や3Dなどのグラフィック機能、複数の段階でのバックアップ機能などが充実している。

第10回視聴覚教育総合全国大会

(東京大会)に参加して

学習情報指導員 名倉 嘉章

平成18年度第10回視聴覚教育総合全国大会が、11月17日(金)・18日(土)に東京で開催された。「ネットワーク社会における、視聴覚教育の在り方を明確にしよう」ヒューマンコミュニケーションを進展させるネットワーク社会の「光と陰」を大会主題に、視聴覚教育関係5団体が集まって実施された。大会1日目は、都内の各校種における公開授業、千葉県市川市映像文化センターにおける研究発表および事例研究交流会が行われた。大会2日目には、国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて全体会が開催され、開会行事や「地域ネットワークの運用」に関するパネルディスカッション、団体別分科会が行われた。

1日目は、全国学校視聴覚教育連盟の主催する東京都港区立神応小学校で行われた公開授業および事例研究会に参加した。一クラス20人程度の学級に、副担任やサイエンスアドバイザー、情報教育アドバイザー、学生ボランティアなど、複数名の大人が授業にかかわるといふ人的環境の素晴らしいに加え、各教室に配備された50インチプラズマディスプレイや校内L

AN、プリンタ整備など、最新のメディア環境が整う中で、公開授業であった。授業の中では、地上デジタル放送で配信されたコンテンツが活用されていた。「地上デジタルテレビ放送の教育活用促進事業」を進める文部科学省生涯学習政策局の担当者の解説もあり、今後の活用の広がりを期待させる機会となった。

2日目のシンポジウムでは、社会生活を送っていく上で必要不可欠な道具として活用されているネットワークの「光と影」の部分に焦点を当てながら、学校教育・社会教育を通しての必要とされる「学び」について意見が交わされた。

子供たちが、飛び交う情報の中で適切な選択をできるようにすること、メディアの活用を進める中で、情報モラルとメディアリテラシーについて、視聴覚教育が担うべき役割はさらに増していることを実感した2日間であった。



視聴覚あれこれ

平成18年度

自作視聴覚教材の完成!

自作教材制作委員会が制作を進めていたビデオおよびマルチメディア作品が完成した。次の7作品である。

- A班 中学校3年社会科 ビデオ
- 「心の扉を開く福祉」
- 「生活挑戦者」と共に生きる」
- B班 小学校5年社会科 ビデオ
- 「額田の森を守れ」炭まき大作戦」
- C班 小学校5年社会科 ビデオ
- 「石工業の戦略」伝統と技術を誇る」
- D班 中学校1年理科 ビデオ
- 「岩石は過去への扉」
- E班 中学校3年理科 ビデオ
- 「乙川」水質の変化を追え」
- F班 中学校2年英語科 ビデオ
- 「Joyful English」
- 「Young Samurai」
- G班 小学校3・4年社会科 マルチ
- 「のうかのし」と「いちじくくり」

4月から、社会科、理科、英語科の各教科部と学習情報部より構成された委員が、コンテ検討・撮影・編集と1年近くかけて制作した。

2月に行われる学習情報主任会において各小中学校に配布するので、授業等で積極的に活用してほしい。



ライブラリーだよ

● 機材貸出のお知らせ

子どもビデオ教室」で使用した機材を貸し出します。

- ・ミニDVカメラセット(マイク付) ・三脚
- ・ビデオ編集用ノートパソコン(ビデオ編集ソフト「超編」インストール済)

今年度の「子どもビデオ教室」の日程が終了したので、撮影・編集セット(10セット)が貸し出し可能です。編集ソフトは、小学生が編集作業を進めてきたもので、使いやすいソフトです。1年間の行事記録のまとめや総合的な学習の時間のまとめとしてビデオ作品に取り組み際には、是非ご利用ください。

ライブラリーホームページの教材・機材予約システムには掲載されていませんので、直接、視聴覚ライブラリーまでご連絡ください。

● 新規機材の紹介

軽量で持ち運び便利なモバイルタイプのプロジェクトターです。(明るさ2200lm 重さ1.7kg)予約システムより「プロジェクトターNo.1」でご利用出来ます。



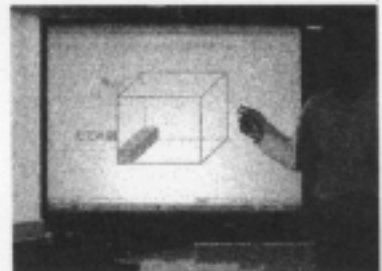
実践報告

スマートボード十校内LAN学力向上

本宿小学校 石川恒彦

コンピュータの画面をプロジェクトターでスマートボードに投影すると、ボードを指でタッチしてコンピュータを操作することができる。子どもと対面しながらコンピュータを使って授業ができるので、大変便利である。さらに校内LANが敷設されていれば、インターネット上に数多くある授業に役立つコンテンツをリアルタイムで利用できるのも効果は絶大となる。

例えば六年生算数「体積」の学習。教科書の問題を読み、子どもの方々に体に向けたまま片手でボードをタッチ。画面には1cmの立方体が縦に四つならぶ。もう一度タッチすると四つのかたまりが横に六列並び、次のタッチで二十四個の立方体が五段重なっていき、直方体の体積が縦×横×高さで求められることが手に取るように分かる。パソコン室へ移動することもなく、パソコン操作にしばらくの間取り回す間に子どもがざわつくこともない。インターネット上にある良質なコンテンツを使うのだから、自作する手間もかからない。



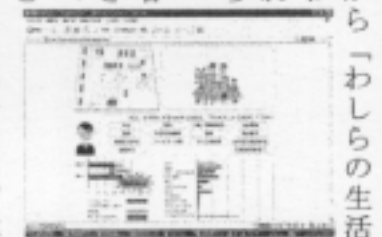
「体積」の確認テストの結果は、どの子どもも高得点であった。シミュレーション教材を効果的に活用すれば、「スマートボード十校内LAN学力向上」に結びつけることができる。

レツツトライ

省庁のホームページで公民の学習を

財務省のHP (<http://www.mof.go.jp/>)には、中学校3年生の公民の授業で役に立つコーナーがたくさんある。今回お薦めなのが「財務大臣になって予算を作ろう!」である。

これは、自らが財務大臣になったつもりで、前年度予算を参考に、新年度の予算を作成していくシミュレーションソフトである。その際、年金・防衛・教育など13に分けられている項目の中で、生徒がその増減を調整しながら、将来、財政赤字が減っていく方向で検討していく。このソフトの面白いところは、生徒が年金を減らす指示を出すと、お年寄りから「わたしの生活はますます不安じゃ」と言われ、また、若者からは、「これで将来僕たちも年金を受けられるめどが立ったね」など、その変更点に対して国民の各立場からの意見がすぐ表示される。その結果、財政の因果関係や国民生活との関わりを楽しみながら学ぶことができる。本校の生徒たちも、友達と声をかけながらシミュレーションに取り組んでいた。中には、最後に国民の負担がさらに増加すると言われ、驚いていた生徒もいた。



財政の仕組みや財政赤字を解消する大変さを身近に感じることのできるソフトである。財務省HPには、他にも、クイズなど役に立つコーナーがある。ぜひ授業で活用されたい。

(竜海中学校 学習情報主任 佐渡英彰)